

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 平成26年5月12日

【四半期会計期間】 第18期第3四半期（自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日）

【会社名】 株式会社ビューティ花壇

【英訳名】 Beauty Kadan Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 三島 美佐夫

【本店の所在の場所】 熊本県熊本市南区流通団地1丁目46番地

【電話番号】 096-370-0004

【事務連絡者氏名】 取締役コーポレート本部長 田口 絹子

【最寄りの連絡場所】 熊本県熊本市南区流通団地1丁目46番地

【電話番号】 096-370-0004

【事務連絡者氏名】 取締役コーポレート本部長 田口 絹子

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第17期 第3四半期連結 累計期間	第18期 第3四半期連結 累計期間	第17期
会計期間		自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日	自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日	自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日
売上高	(千円)	3,901,830	4,839,527	5,142,396
経常利益	(千円)	151,441	1,721	175,823
四半期(当期)純利益又は四半 期純損失()	(千円)	63,519	9,333	85,573
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	88,489	4,961	120,778
純資産額	(千円)	689,316	595,967	734,991
総資産額	(千円)	2,768,397	3,394,781	2,671,140
1株当たり四半期(当期)純利 益金額又は1株当たり四半期 純損失金額()	(円)	15.21	2.20	20.27
潜在株式調整後1株当たり四 半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	21.6	17.5	23.9

回次		第17期 第3四半期 連結会計期間	第18期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日	自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	16.18	2.63

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第17期第3四半期連結累計期間及び第17期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第18期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。
5. 平成25年7月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、第17期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()を算定しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれる事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(生花祭壇事業)

主要な関係会社の異動はありません。

(生花卸売事業)

平成25年10月1日にマイ・サクセス株式会社の株式を取得し、生花輸入・販売を主たる事業とする同社が連結子会社となりました。

(プライダル装花事業)

主要な関係会社の異動はありません。

(土木・建築事業)
主要な関係会社の異動はありません。
(その他の事業)
主要な関係会社の異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による積極的な経済対策や日本銀行の金融政策を背景に、雇用情勢の改善や企業の設備投資に一部回復の動きが見られる等、緩やかな景気回復の兆しがみられるものの、海外景気に対する不安感や原材料価格の高騰、消費税増税による消費減退の可能性など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、取巻く環境の急激な変化に対応するための体質強化を図るべく、積極的なM&Aの推進及び拠点の新設、大幅な組織改編等、各事業における売上拡大へ向けた施策を実施してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、4,839,527千円(前年同期比24.0%増)、利益面におきましては諸経費や人件費及びその他販売管理費の削減を推進しておりますが、メイン事業である生花祭壇事業における売上高が、計画より低調に推移したことに伴い、営業損失は30,750千円(前年同期は141,039千円の営業利益)、経常利益は1,721千円(前年同期比98.9%減)、四半期純損失は9,333千円(前年同期は63,519千円の四半期純利益)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、2,424,353千円(前年同期比0.5%減)となりました。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、葬儀業の平成25年7月から平成26年2月までの売上高は401,448百万円(前年同期比1.0%増)、取扱件数は284,532件(前年同期比0.7%増)と葬儀単価は横ばいで推移しつつも件数が増加し、売上は拡大している状況です(同調査は、平成25年4月分より葬儀業において、一部調査対象の追加等が行われており、平成25年3月以前の数値はリンク係数で除した数値で前年比較を行っております)。このように葬儀業全体では市場は拡大しておりますが、葬儀業における各カテゴリー(葬祭専門事業者、冠婚葬祭業者、農業協同組合、新規参入事業者等)別や地域別にみるとその状況は均一ではありません。特定のカテゴリー事業者や地域では社会構造の変化に伴い、消費者の価値観やニーズも急激に変化しつつあり、葬儀の小型化や単価の下落傾向が続いております。

このような状況の中で、当事業では単価下落による売上の減少をカバーするべく、拠点新設や大幅な組織改編、低価格帯商品の企画提案等による、新規顧客獲得・既存顧客の発注シェアアップやリピート件数獲得を図ってまいりました。

具体的には、平成25年10月に「関東受注センター」を新設し関東地区における機動的な受注システムを構築、同月に東京都新宿区に「落合営業所」、同年12月には「長野支店」をそれぞれ新設するなど業務効率化と売上拡大へ向けた施策を実施し、更には関東地区における商品規格を見直すなど、原価低減による粗利益率向上へも取り組みました。

一方で、台湾子会社の美麗花壇股份有限公司による事業再編の一時的な収益の悪化、円安による原価率の上昇、1件あたりの施行単価の下落傾向により営業利益は133,116千円(前年同期比60.3%減)となりました。

(生花卸売事業)

生花卸売事業の売上高は、1,123,637千円(前年同期比73.3%増)となりました。東京都中央卸売市場「市場統計情報」(平成26年2月)によると、平成25年7月から平成26年2月までの切花累計の取扱金額は38,600百万円(前年同期比3.4%増)、数量では596百万本(前年同期比2.1%減)と金額ベースでは増加、数量ベースでは減少傾向にあります。当事業では、引き続き既存顧客並びに新規顧客への積極的な販売促進活動が奏功したこと、及び第2四半期連結会計期間中に完全子会社化したマイ・サクセス株式会社について、当第3四半期連結会計期間から同社の業績を連結損益計算書に反映したことにより、売上高は増加いたしました。一方で組織改編等に伴う販売管理費増加の影響により、営業利益は102,555千円(前年同期比3.0%減)となりました。

(ブライダル装花事業)

ブライダル装花事業の売上高は343,128千円(前年同期比54.1%増)となりました。少子化と非婚化の影響を受け、婚姻件数は減少傾向にあるものの、オリジナル挙式志向の高まり、結婚年齢の上昇等による費用の増加を背景に大きな市場規模が保持されております。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、平成25年6月から平成26年2月までの結婚式場業の売上高は109,520百万円(前年同期比2.6%減)、取扱件数は36,811件(前年同期比2.7%減)となっております。ブライダル装花事業を請け負う連結子会社の株式会社One Flowerでは、平成25年1月に株式会社Standing Ovationよりブライダル装花事業を譲り受け事業拡大を図ったほか、積極的な営業活動を実施した結果、営業利益は55,308千円(前年同期比127.1%増)となりました。

(土木・建設事業)

土木・建築事業の売上高は761,741千円(前年同期比73.1%増)となりました。土木・建設事業は熊本市内及びその近郊にて事業を行っております。熊本県内の近年の工事内容を見ると、災害対策として河川などの維持・修繕工事に加え、安倍政権の経済政策「アベノミクス」による公共投資の増加が寄与しております。今後も公共工事件数の大幅な増加に伴う資材や人件費の高騰等懸念材料は残るものの、この傾向は暫く堅調に推移するものと思われれます。この結果、営業利益は22,459千円(前年同期比94.3%増)となりました。

(その他の事業)

その他の事業は、システム開発事業及び不動産管理事業を行っております。売上高は186,666千円(前年同期比20.3%増)、営業損失は4,256千円(前年同期は8,333千円の営業損失)となりました。システム開発事業は、葬儀関連会社に対する基幹システム、名札書きシステム及びモバイル端末を用いた電子カタログや建築事業者に対するCADシステムの開発を行っております。不動産管理事業は、不動産の取得、処分、貸借及び管理を行っております。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ723,641千円増加し、3,394,781千円となりました。これは主に完成工事未収入金の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度末に比べ862,666千円増加し、2,798,814千円となりました。これは主に、短期借入金増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間の純資産は、前連結会計年度末に比べ139,024千円減少し、595,967千円となりました。これは主に、利益剰余金、少数株主持分の減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,600,000
計	17,600,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年5月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,076,000	5,076,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株 あります。
計	5,076,000	5,076,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年1月1日～ 平成26年3月31日		5,076,000		213,240		133,240

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 855,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,220,300	42,203	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
発行済株式総数	5,076,000	-	-
総株主の議決権	-	42,203	-

(注) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ビューティ花壇	熊本県熊本市南区流通団地1-46	855,700		855,700	16.86
計		855,700		855,700	16.86

(注) 上記「自己株式等」は、全て当社保有の自己株式であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年7月1日から平成26年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人よつば総合事務所による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	773,847	710,182
受取手形及び売掛金	497,759	645,176
完成工事未収入金	2,639	458,180
商品	5,798	12,707
仕掛品	1,956	8,277
原材料及び貯蔵品	23,920	27,056
未成工事支出金	308	138
その他	101,862	146,941
貸倒引当金	15,552	16,275
流動資産合計	1,392,539	1,992,386
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	386,132	440,831
減価償却累計額	148,680	164,157
建物及び構築物(純額)	237,451	276,674
車両運搬具	170,650	194,818
減価償却累計額	91,280	123,429
車両運搬具(純額)	79,369	71,388
工具、器具及び備品	195,546	196,857
減価償却累計額	145,818	148,639
工具、器具及び備品(純額)	49,727	48,218
土地	242,627	235,091
その他	21,211	25,092
減価償却累計額	11,096	12,109
その他(純額)	10,114	12,983
有形固定資産合計	619,290	644,355
無形固定資産		
のれん	114,716	143,047
その他	9,996	18,472
無形固定資産合計	124,713	161,519
投資その他の資産		
投資不動産	182,571	210,697
減価償却累計額	13,404	15,417
投資不動産(純額)	169,166	195,280
差入保証金	170,836	189,549
その他	242,477	242,414
貸倒引当金	47,884	30,725
投資その他の資産合計	534,596	596,519

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
固定資産合計	1,278,600	1,402,394
資産合計	2,671,140	3,394,781
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	113,929	295,337
短期借入金	453,507	1,129,500
1年内返済予定の長期借入金	375,463	397,755
1年内償還予定の社債	25,000	20,000
未払金	66,398	64,494
未払法人税等	49,156	6,315
賞与引当金	6,911	15,558
その他	269,029	316,167
流動負債合計	1,359,395	2,245,129
固定負債		
社債	40,000	20,000
長期借入金	488,516	487,314
退職給付引当金	27,696	32,262
その他	20,540	14,108
固定負債合計	576,753	553,684
負債合計	1,936,148	2,798,814
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,240	213,240
資本剰余金	142,056	142,056
利益剰余金	438,095	403,022
自己株式	156,922	178,643
株主資本合計	636,468	579,674
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	410	373
為替換算調整勘定	777	14,154
その他の包括利益累計額合計	1,188	14,528
新株予約権	-	1,764
少数株主持分	97,334	-
純資産合計	734,991	595,967
負債純資産合計	2,671,140	3,394,781

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)
売上高	3,901,830	4,839,527
売上原価	3,149,154	4,079,238
売上総利益	752,676	760,289
販売費及び一般管理費	611,636	791,039
営業利益又は営業損失()	141,039	30,750
営業外収益		
受取利息及び配当金	872	937
貸倒引当金戻入額	70	18,976
受取賃貸料	9,420	14,950
その他	23,042	27,232
営業外収益合計	33,405	62,096
営業外費用		
支払利息	11,483	12,094
不動産賃貸費用	3,395	3,710
為替差損	6,200	2,310
雑損失	865	10,055
その他	1,059	1,454
営業外費用合計	23,003	29,625
経常利益	151,441	1,721
特別利益		
受取損害賠償金	-	17,438
その他	-	138
特別利益合計	-	17,576
特別損失		
固定資産除売却損	13,770	3,842
長期前払費用償却	-	7,857
その他	3,883	237
特別損失合計	17,653	11,937
税金等調整前四半期純利益	133,788	7,360
法人税、住民税及び事業税	53,234	8,356
法人税等調整額	95	16,508
法人税等合計	53,329	24,865
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	80,458	17,504
少数株主利益又は少数株主損失()	16,939	8,171
四半期純利益又は四半期純損失()	63,519	9,333

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	80,458	17,504
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,195	57
為替換算調整勘定	9,226	12,600
その他の包括利益合計	8,030	12,542
四半期包括利益	88,489	4,961
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	66,936	4,007
少数株主に係る四半期包括利益	21,552	8,969

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)
第2四半期連結会計期間において、マイ・サクセス株式会社の株式を取得したことにより、マイ・サクセス株式会社を連結の範囲に含めております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)
減価償却費	59,019千円	64,221千円
のれんの償却額	8,840 "	21,242 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年9月21日 定時株主総会	普通株式	37,067	1,775	平成24年6月30日	平成24年9月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年9月20日 定時株主総会	普通株式	25,740	1,200	平成25年6月30日	平成25年9月24日	利益剰余金

(注)平成25年7月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株の割合で株式分割を行っています。当該株式分割を考慮した場合、1株当たり配当額は6円となります。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル 装花事業	土木・建設 事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	2,435,440	648,409	222,705	440,089	3,746,645	155,185		3,901,830
セグメント間の内部売上高又は振替高		698,784	5,855		704,639	10	704,649	
計	2,435,440	1,347,194	228,560	440,089	4,451,285	155,195	704,649	3,901,830
セグメント利益又は損失()	335,072	105,681	24,349	11,560	476,664	8,333	327,290	141,039

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業及び不動産管理事業を含めております。

2. セグメント利益又は損失の調整額 327,290千円には、セグメント間取引消去2,202千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 329,493千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ブライダル装花事業」セグメントにおいて、平成25年1月1日付で株式会社Brilliaの装花事業を譲り受けいたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては32,120千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル 装花事業	土木・建設 事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	2,424,353	1,123,637	343,128	761,741	4,652,861	186,666		4,839,527
セグメント間の内部売上高又は振替高	57	744,576	3,450		748,084	2,844	750,928	
計	2,424,411	1,868,214	346,579	761,741	5,400,946	189,510	750,928	4,839,527
セグメント利益又は損失()	133,116	102,555	55,308	22,459	313,439	4,256	339,933	30,750

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業と不動産管理事業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 339,933千円には、セグメント間取引消去31,287千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 371,220千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「生花卸売事業」セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間にマイ・サクセス株式会社の株式を取得し連結子会社としました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては39,305千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	15.21	2.20
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	63,519	9,333
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	63,519	9,333
期中平均株式数(株)	4,176,600	4,236,539

- (注) 1. 前第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。
3. 平成25年7月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、前第3四半期連結累計期間の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純損失金額()を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 5月12日

株式会社ビューティ花壇
取締役会 御中

監査法人よつば総合事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 神 門 剛 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高 屋 友 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティ花壇の平成25年7月1日から平成26年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年7月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティ花壇及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。